

# 遊休農地の解消を目指して

## 下北山村農業委員会

### 1. 下北山村の農業の概要

下北山村は、人口1,050人、面積133.53km<sup>2</sup>と小さな村で、奈良県の東南端、紀伊半島の中央部に位置し、南部は和歌山県北山村(飛地)東南部は三重県熊野市に接しています。昔から豊かな自然と森林資源に恵まれ、村の基幹産業として林業が長い間位置づけられてきましたが、農業については、ほとんどの農家が自家消費分を耕作している状況です。

しかし、近年急速な過疎化・高齢化に伴い農業の担い手が減少しており、遊休農地の増加やシカやサル、イノシシアナグマといった有害獣の被害により生産意欲を阻害されており、多くの農業者を悩ませています。

### 2. 農業委員会の取り組み

下北山村農業委員会では、高齢化による担い手の減少や遊休農地の増加が課題となる中、地域の状況把握や啓発活動を目的として、農地パトロール活動を実施しています。農業委員総会で、農地パトロールの実施の趣旨及び目的を確認し、各地区の利用状況を調査してもらい、その結果を報告することになっています。





本村では、平成20年に奈良県の「大和の伝統野菜」に認定された「下北春まな」があります。「下北春まな」は、古くから自家野菜として栽培され、この地の気候と地形でしか栽培に適さない野菜として村民に愛されてきました。また冬場に霜がおりることにより葉の厚みと甘みが増し、独特のほろ苦さがあるのが特徴です。この「下北春まな」は下北



下北春まな

山村でしか栽培できないという希少性を活かした商品により、農家収入の安定を図るとともに、観光客誘致、新商品の事業化による雇用の創出を目指し関係機関とともに取り組んでいます。

また、平成25年7月より下北山スポーツ公園駐車場において、地域興し協力隊による「土曜朝市」が毎週開催され、村内で栽培された新鮮な取れたて野菜や果物の販売がされ、早朝から村民や観光客で賑っております。またこの土曜朝市の実施により生産者の販売意欲も高まり、村の活性化の一翼を担っています。